

**「深大寺元町特別緑地保全地区」
保全管理計画の策定に向けたオープンハウス(第2回)**



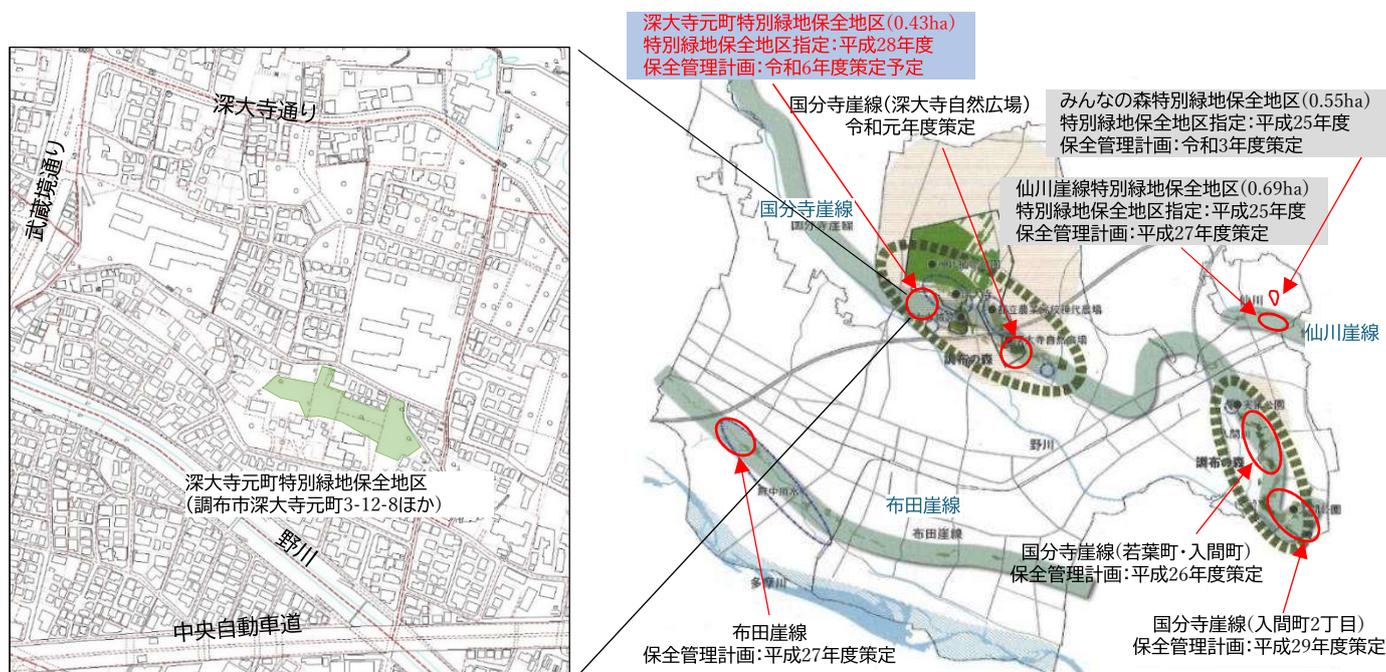
**令和7年1月25日(土曜日) 9:30~16:30
28日(火曜日)17:30~20:30**

調布市 環境部 緑と公園課

1. 深大寺元町特別緑地保全地区について

深大寺元町特別緑地保全地区は、武蔵野の雑木林の面影を残し、崖線緑地として緑豊かで良好な景観を形成するとともに、野生生物の生育・生息環境としても貴重な場所です。

平成29年に特別緑地保全地区の指定を行い、次世代へと引き継ぐべき貴重な緑地として、その保全と活用を図ることを目的として保全管理計画を策定することとしています。



<各崖線緑地と保全管理計画策定状況>

「特別緑地保全地区制度」

都市緑地法に基づき、豊かな緑を未来へ継承するため、都市における良好な自然的環境を形成している緑地において、建築行為など一定の行為を制限し現状を保全する制度です。

都市計画法における地域地区として計画決定を行います。

2. 基本方針

この地区の地形や自然環境の特徴, 市民アンケート結果等を参考に, 基本方針を作成しました。

◇基本方針

- 調布市深大寺に残された貴重な自然環境として計画的な更新のもと保全する。
- 武蔵野の雑木林を保全継承するため, クヌギやコナラなどからなる樹林形成を目指す。
- 動植物保全, 近隣影響, 安全確保に配慮しながら, 人と自然が共存できる活用を進める。
- 崖線の存在を生かした景観形成を図る。

基本方針やこの後のパネルのゾーニング計画や管理内容について, 皆さまのご意見を是非この機会にお寄せください。

また, 質問等がございましたら近くの係の者までお願いいたします。

3-1. ゾーニング計画

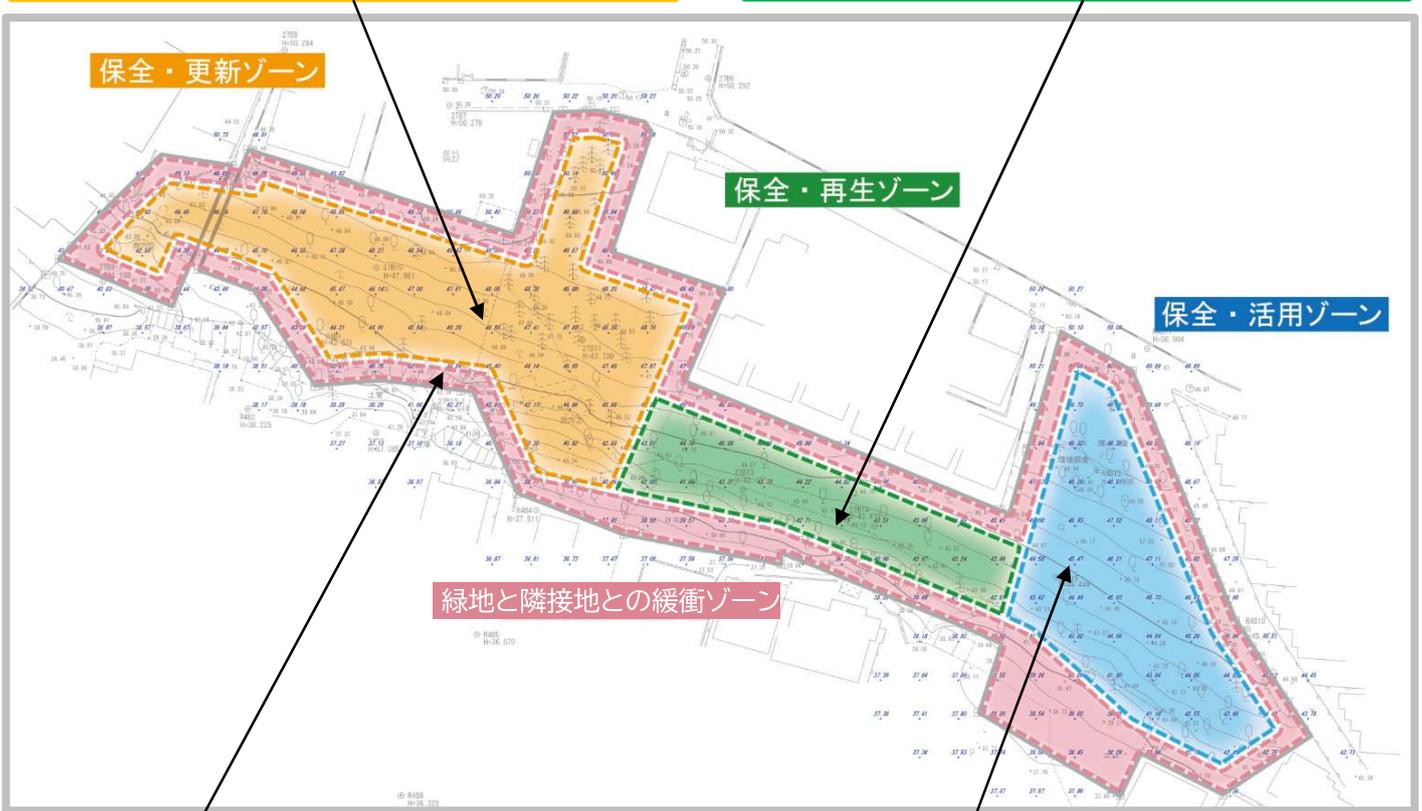
この地区を4つのゾーンに分け、それぞれに保全管理の目標を定めました。

保全・更新ゾーン

モウソウチク林の拡大を抑制し、シラカシやケヤキなどの大木を生育状況に合わせて保全する。将来的には補植なども行いながらクヌギやコナラなどによる**明るい雑木林への更新**を進める。

保全・再生ゾーン

シラカシ群落、ケヤキの大木を生育状況に合わせて保全、シュロや林床のアズマネザサなどの草を適正管理することで**高中低木層からなる自然性豊かな植生**を目指す。



緑地と隣接地との緩衝ゾーン

越境枝や傾斜地など、隣接地への影響を考慮し、せん定、伐採や補植などによる**隣接地へ影響を緩和**するゾーン。

保全・活用ゾーン

クヌギ、コナラの適正管理を行うとともに、平坦場所の**一部開放利用**を図るゾーン。眺望、見通しの良い**明るく開放的な樹林環境**を形成する。

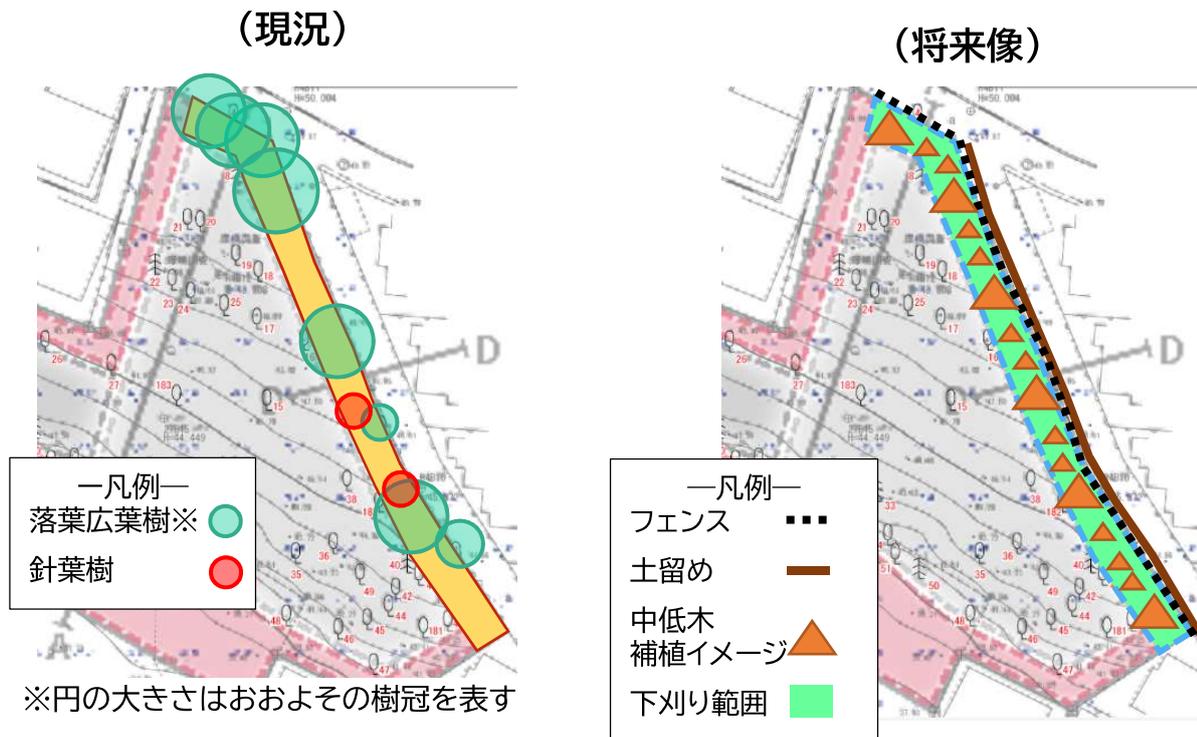
3-2. ゾーニング計画:緑地と隣接地との緩衝ゾーン(道路沿い)

【ゾーン管理の基本的な考え方】

- ・道路への落ち葉, 落枝や表土の流出などの影響を減らし, 樹高の低い樹林を目指す。
- ・防犯性, 安全性に配慮しながら緑地内の見通しを確保する。

【管理項目】

- ・道路や住宅に影響を与えている大木を必要に応じて伐採及び剪定
- ・大木伐採後の中低木による補植及び樹林密度の低い場所への補植
- ・落ち葉や表土流出を抑えるために土留めを設置
- ・防犯性や安全性を考慮し, 下刈り及びフェンスを設置



◆補植する中低木について

補植する中低木は, 武蔵野の雑木林を構成する種から, アオキやムラサキシキブなど, 秋から冬に実をつけ, 彩りが良く, 鳥類の採餌木にもなる種をなるべく選定する。



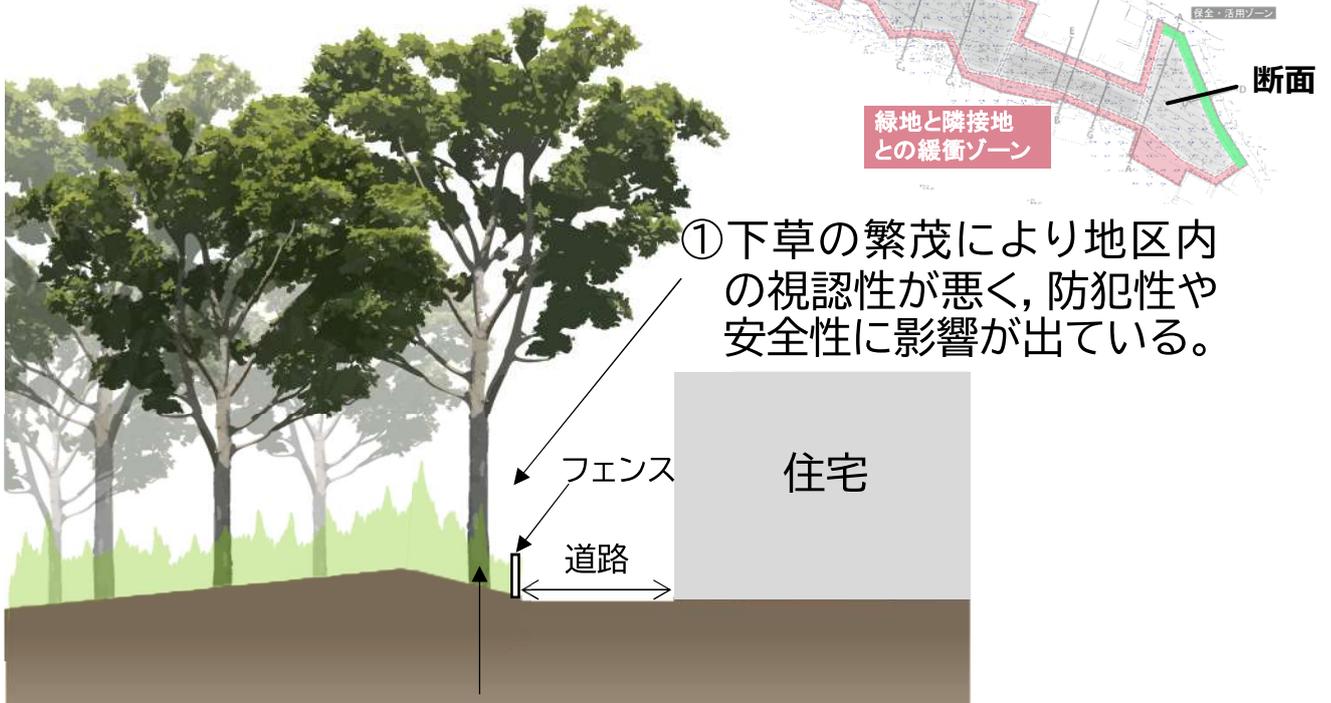
アオキ



ムラサキシキブ

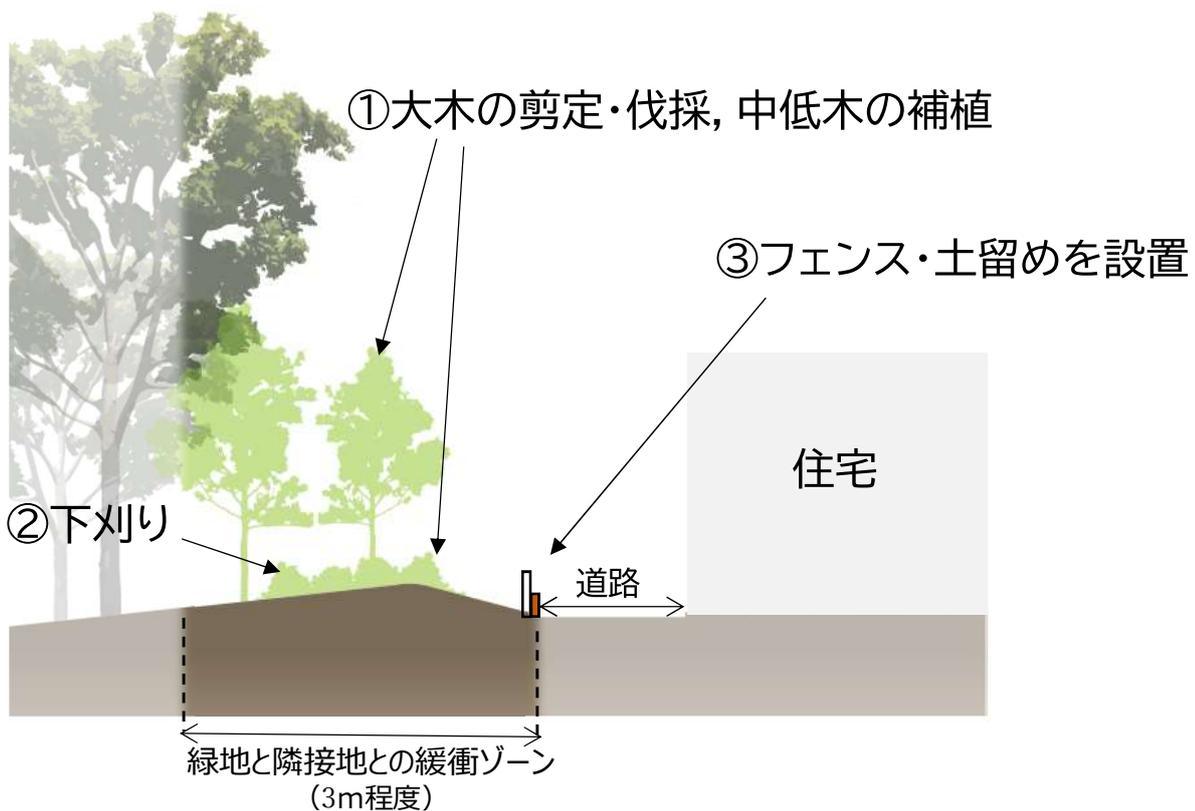
3-2. ゾーニング計画:緑地と隣接地との緩衝ゾーン(道路沿い)

【現況】



② 敷地境界に位置する大木からの落ち葉や落枝などにより, 道路や住宅に影響が出ている。

【将来像】



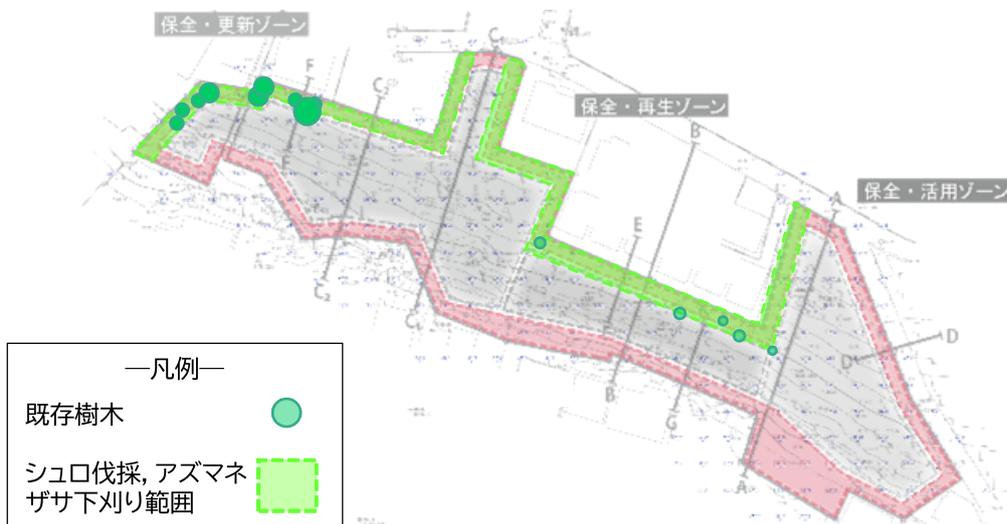
3-2. ゾーニング計画:緑地と隣接地との緩衝ゾーン(住宅地沿い)

【ゾーン管理の基本的な考え方】

- ・近隣住宅の皆さまの意向を伺いながら、住宅地への影響(日照阻害, 越境枝等)を抑える対策を実施する。
- ・住宅地際の林床植生が過密繁茂しないよう適正に管理する。

【管理項目】

- ・枯木, 越境枝等の住宅に 影響の恐れがある樹木の剪定及び伐採
- ・繁茂状況に応じた下刈りや伐採
(アズマネザサの下刈り, シュロの伐採等)



(現況)



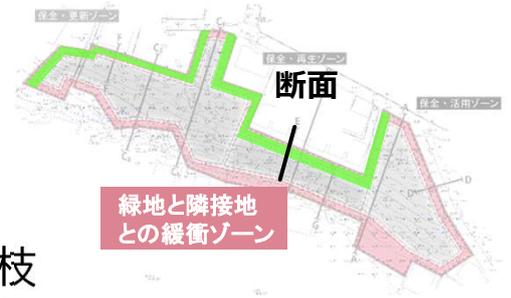
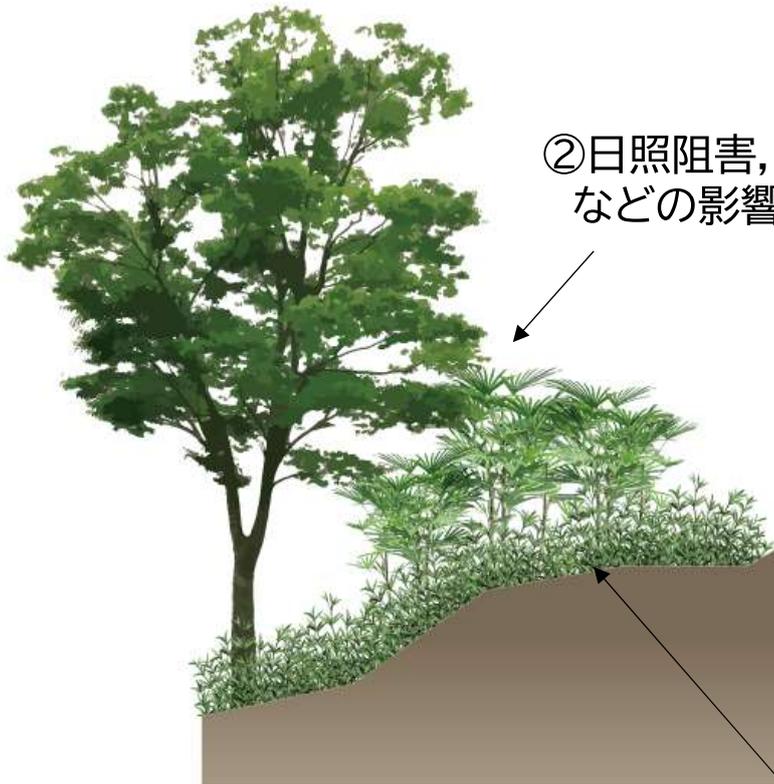
(緩衝ゾーン管理イメージ)



住宅地沿いの下刈り事例(都立公園内事例)

3-2. ゾーニング計画:緑地と隣接地との緩衝ゾーン(住宅地沿い)

【現況】



②日照障害, 越境枝
などの影響がある。

住宅

①住宅地際に高茎草本, シュロ, モウ
ソウチクなどが密植繁茂している。

【将来像】



住宅

下刈り, 伐採などによる
高茎草本, シュロなどの
密度管理

緑地と隣接地との緩衝ゾーン
(3m程度)

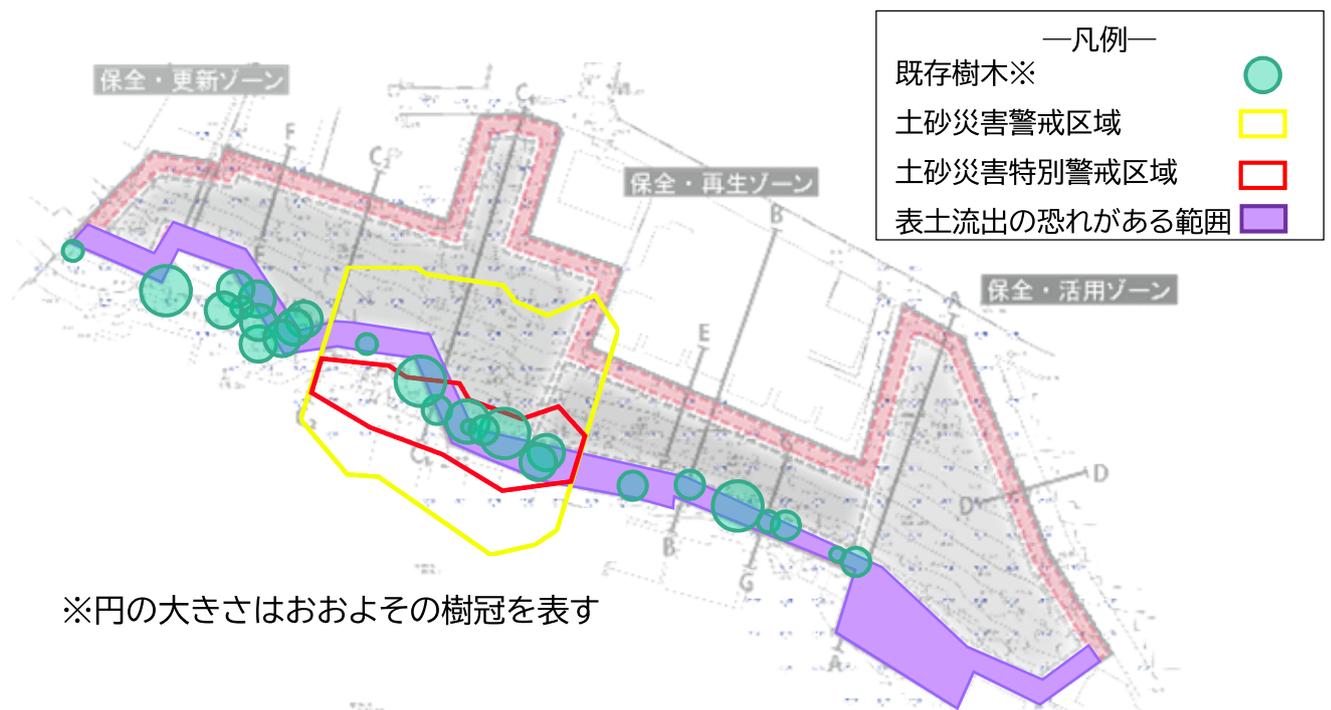
3-2. ゾーニング計画:緑地と隣接地との緩衝ゾーン(急傾斜地)

【ゾーン管理の基本的な考え方】

- ・土砂災害特別警戒区域の対策を実施するまでは現状の植生を保全する。
- ・近隣住民の皆さまの意向を伺いながら、住宅への落枝や表土の流出などの影響を減らす対策を実施する。

【管理項目】

- ・倒木のおそれのある樹木の剪定・伐採
- ・急傾斜地における表土流出を防ぐために、表土流出の恐れがある斜面に草本類や地被類の補植を行う。



◆補植する草本類・地被類について

表土流出を防ぐために補植する草本類・地被類は、周辺地域で見られるススキやヨモギなどの在来種をなるべく選定する。



ススキ

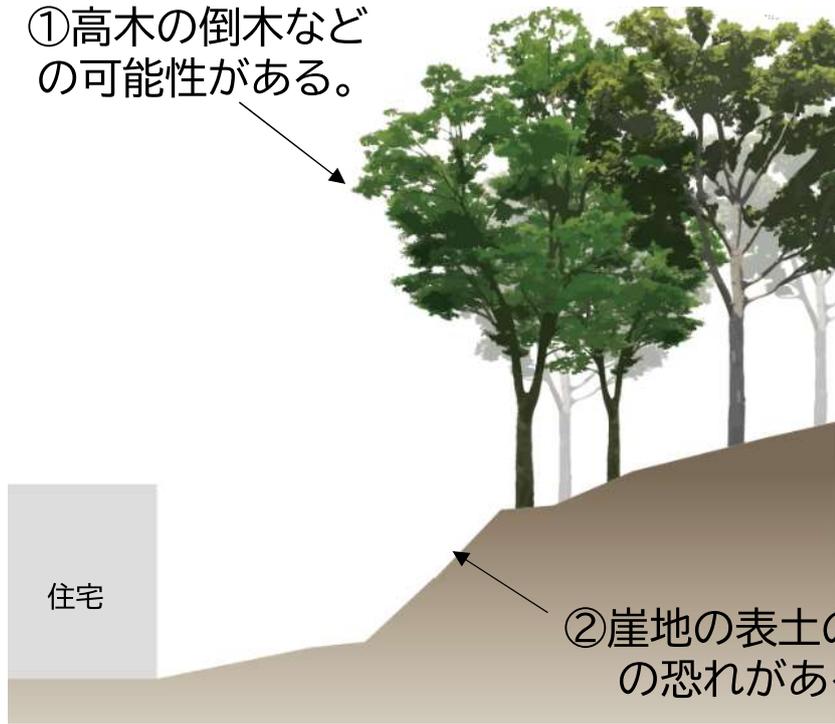


ヨモギ

3-2. ゾーニング計画:緑地と隣接地との緩衝ゾーン(急傾斜地)

【現況】

①高木の倒木などの可能性がある。



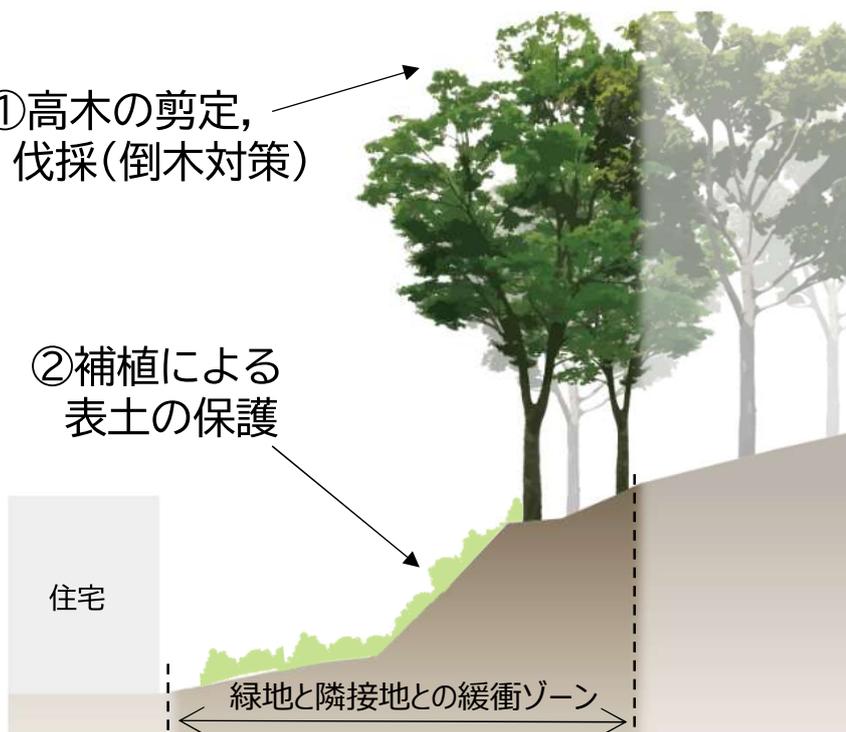
②崖地の表土の流出の恐れがある。



【将来像】

①高木の剪定, 伐採(倒木対策)

②補植による表土の保護



緑地と隣接地との緩衝ゾーン

3-3. ゾーニング計画:保全・活用ゾーン

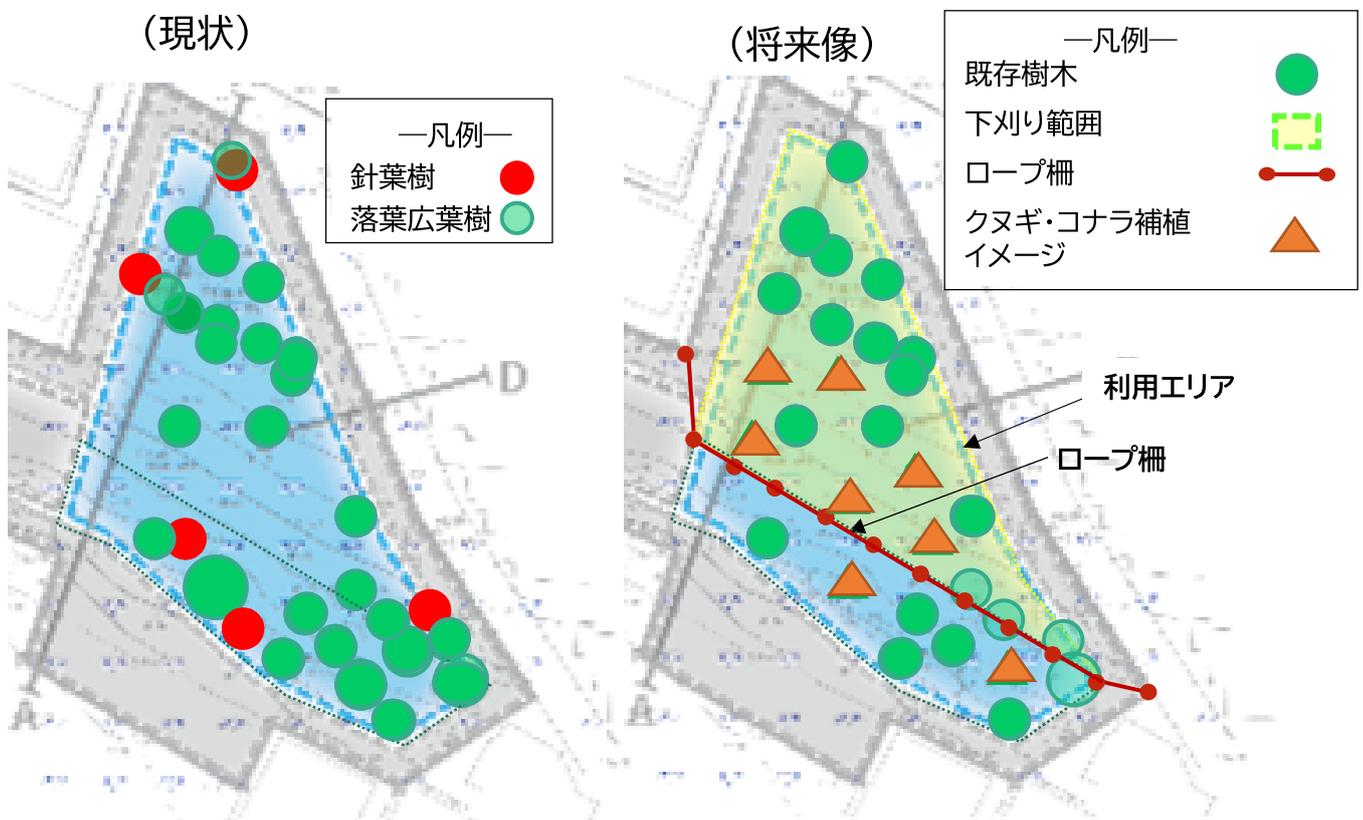
【ゾーン管理の基本的な考え方】

- ・落葉広葉樹林を保全するため、現状の武蔵野の雑木林を保全しながら、補植による樹木更新を行う。
- ・明るい林床を維持し、重要種の保全と活用との両立を目指す。

【管理項目】

- ・樹林の密度が低い箇所へのクヌギ・コナラの補植
- ・枯木の伐採及びクヌギ・コナラの補植
- ・実生木の生育環境維持
- ・利用エリア※の下刈り
- ・利用エリアにロープ柵を設置

※ゾーンの中に急傾斜地があるため、利用者の安全面を考慮して一部を利用エリアとする。また、利用エリアの開放については、各ゾーンの管理状況を踏まえて段階的に検討します。）



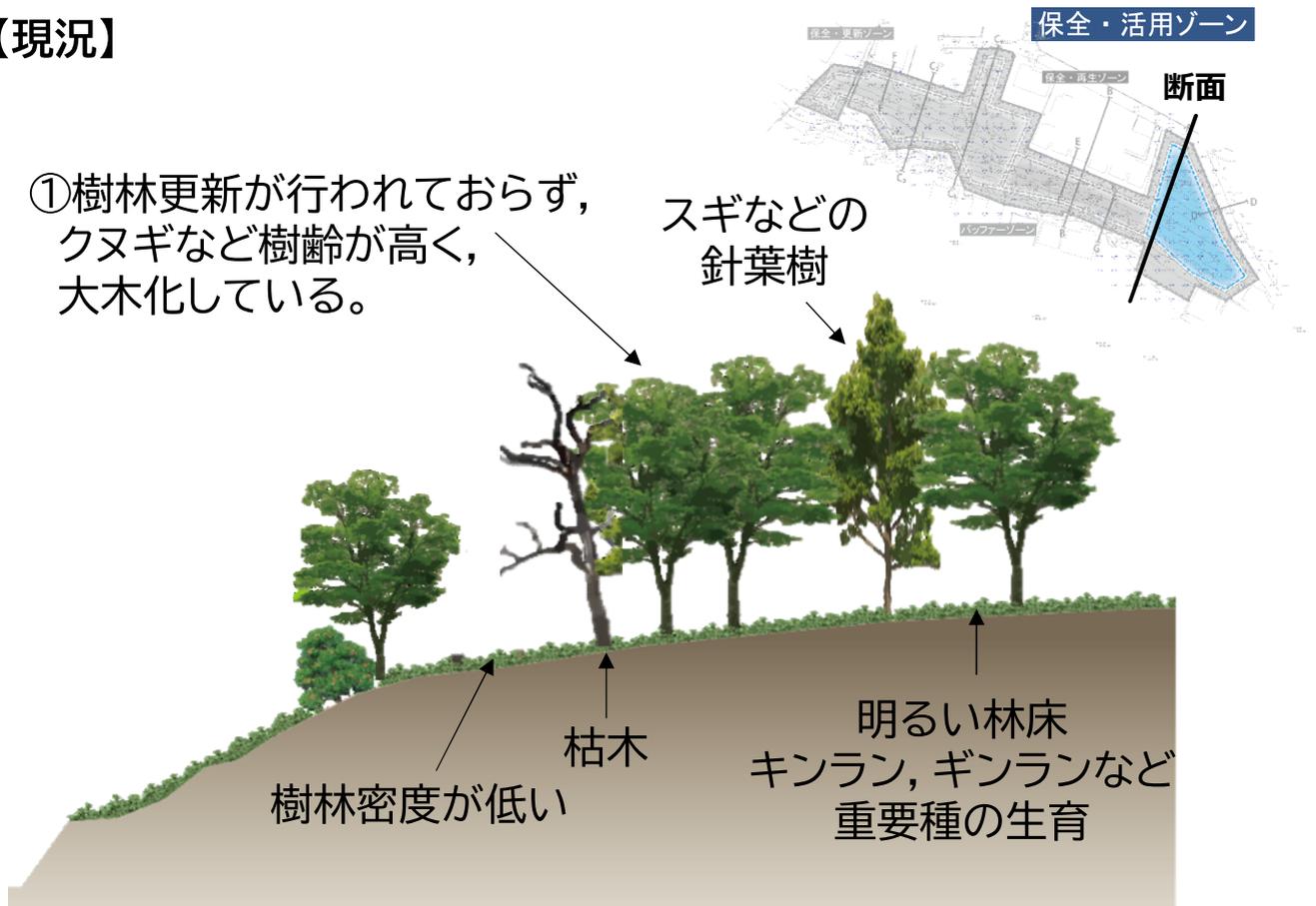
※円の大きさはおよその樹冠を表す

3-3. ゾーニング計画:保全・活用ゾーン

【現況】

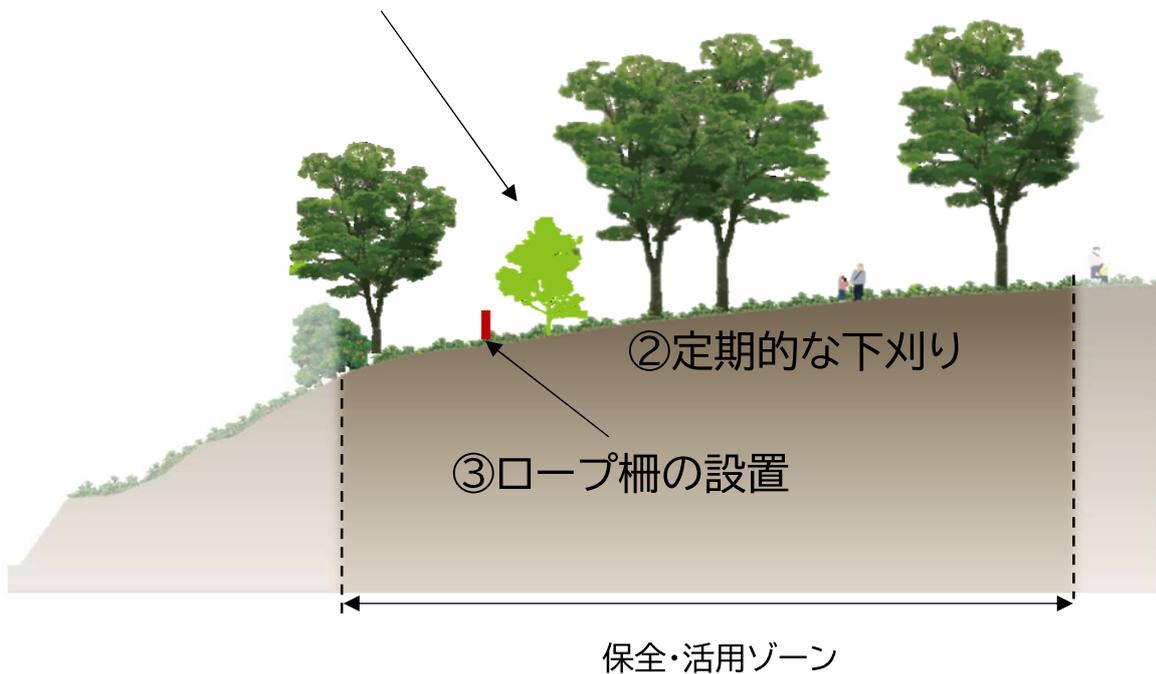
① 樹林更新が行われておらず、クヌギなど樹齢が高く、大木化している。

スギなどの針葉樹



【将来像】

① 枯木,老木等を伐採し,クヌギ・コナラなどを補植



3-4. ゾーニング計画:保全・再生ゾーン

【ゾーン管理の基本的な考え方】

- ・現状の樹木や林床植生を保全し、高中低木層からなる自然性豊かな植生を目指す。
- ・土砂災害特別警戒区域の対策を実施するまでは現状の植生を保全する。

【管理項目】

- ・生態系等への被害を及ぼす恐れがあるシュロなど外来種の適宜伐採
- ・周りの植生の保全に影響を与えるアズマネザサの下刈り
- ・中低木層の再生に向け、樹林密度の低い場所への補植
- ・住宅に影響する恐れのある枯木、枯枝の伐採・剪定



◆補植する中低木について

補植する中低木は、武蔵野の雑木林を構成する種から、アオキやムラサキシキブなど、秋から冬に実をつけ、彩りが良く、鳥類の採餌木にもなる種をなるべく選定する。



アオキ

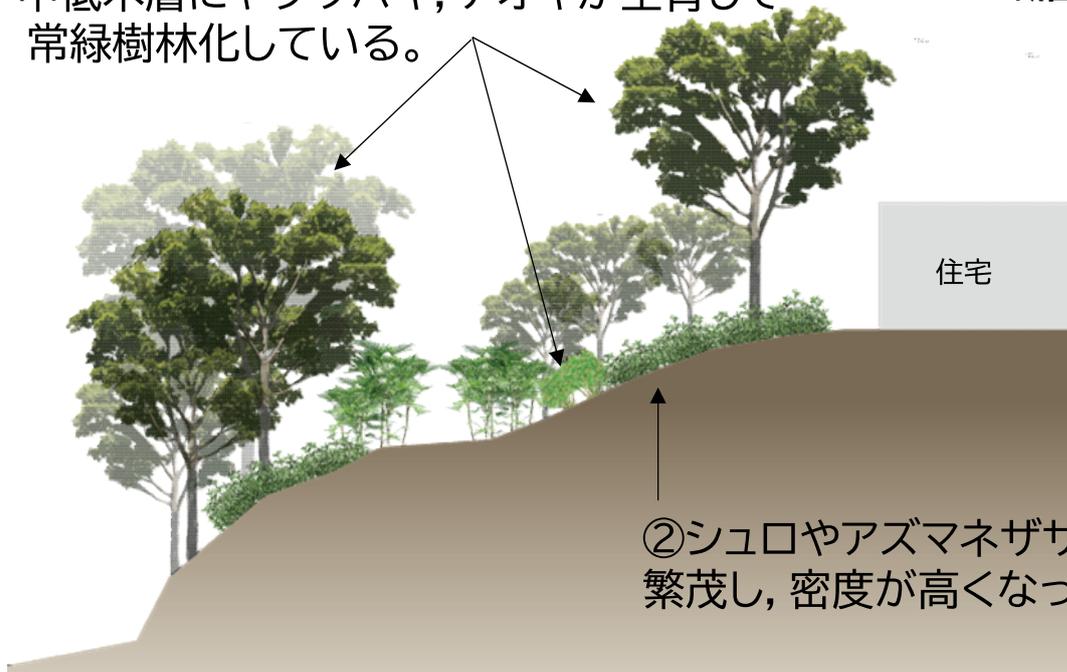
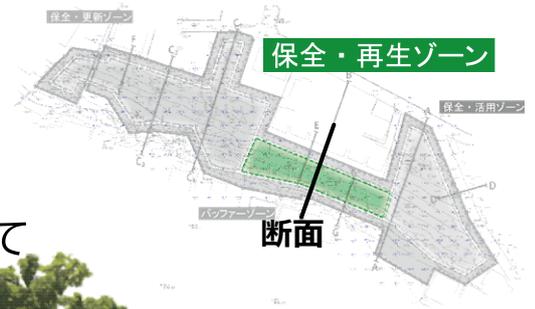


ムラサキシキブ

3-4. ゾーニング計画:保全・再生ゾーン

【現況】

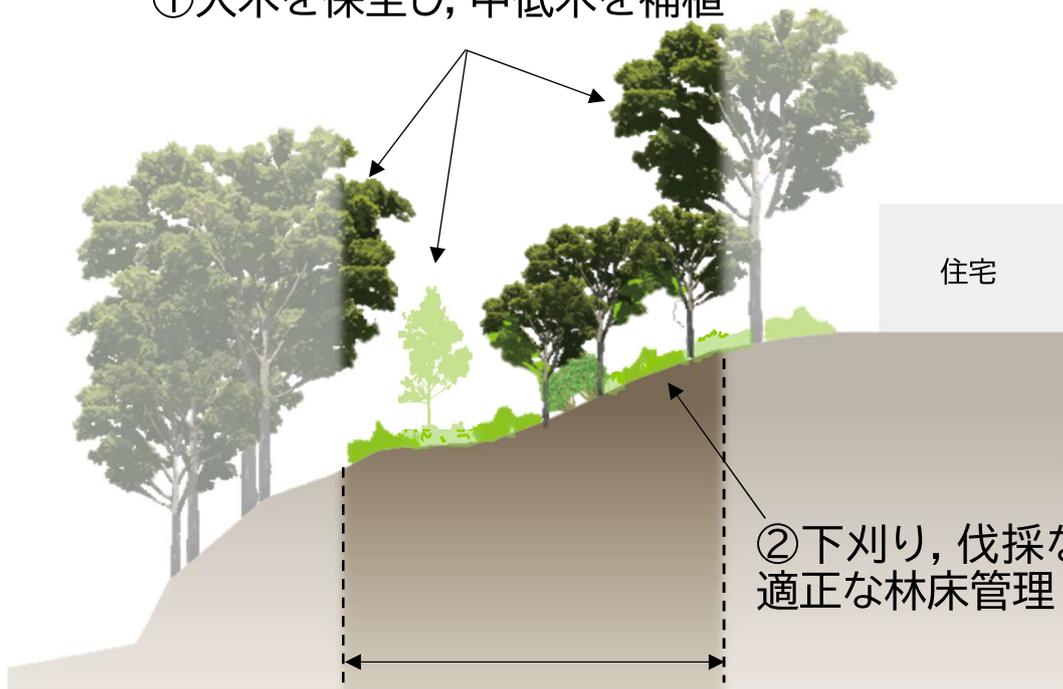
①シラカシ, ケヤキなどの樹木が大木化,
中低木層にヤブツバキ, アオキが生育して
常緑樹林化している。



②シュロやアズマネザサなどが
繁茂し, 密度が高くなっている。

【将来像】

①大木を保全し, 中低木を補植



②下刈り, 伐採などの
適正な林床管理

保全・再生ゾーン

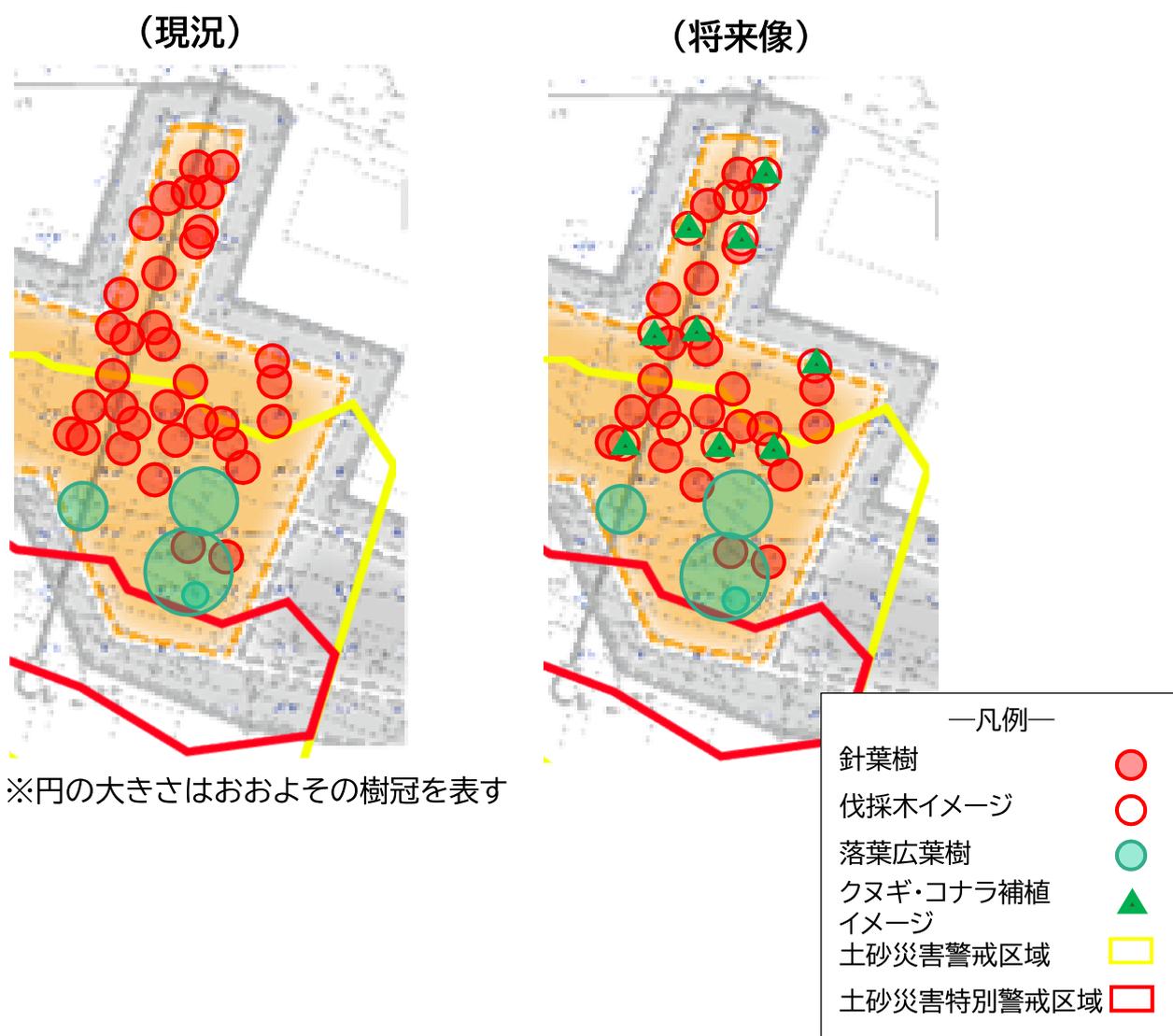
3-5. ゾーニング計画:保全・更新ゾーン1

【ゾーン管理の基本的な考え方】

- ・土砂災害特別警戒区域の対策を実施するまでは現状の植生を保全する。
- ・落葉広葉樹の保全及び針葉樹の密度管理による保全を目指す。

【管理項目】

- ・繁茂しているアズマネザサなどの下刈り
- ・住宅に影響の恐れがある枯木, 枯枝の伐採・剪定
- ・密度管理による針葉樹(スギ・サワラ)の伐採
- ・針葉樹伐採後にクヌギ・コナラを補植



3-5. ゾーニング計画:保全・更新ゾーン1

【現況】

②スギ, ヒノキなどの針葉樹の植林域は,
樹林密度が高く, 林内が暗い。

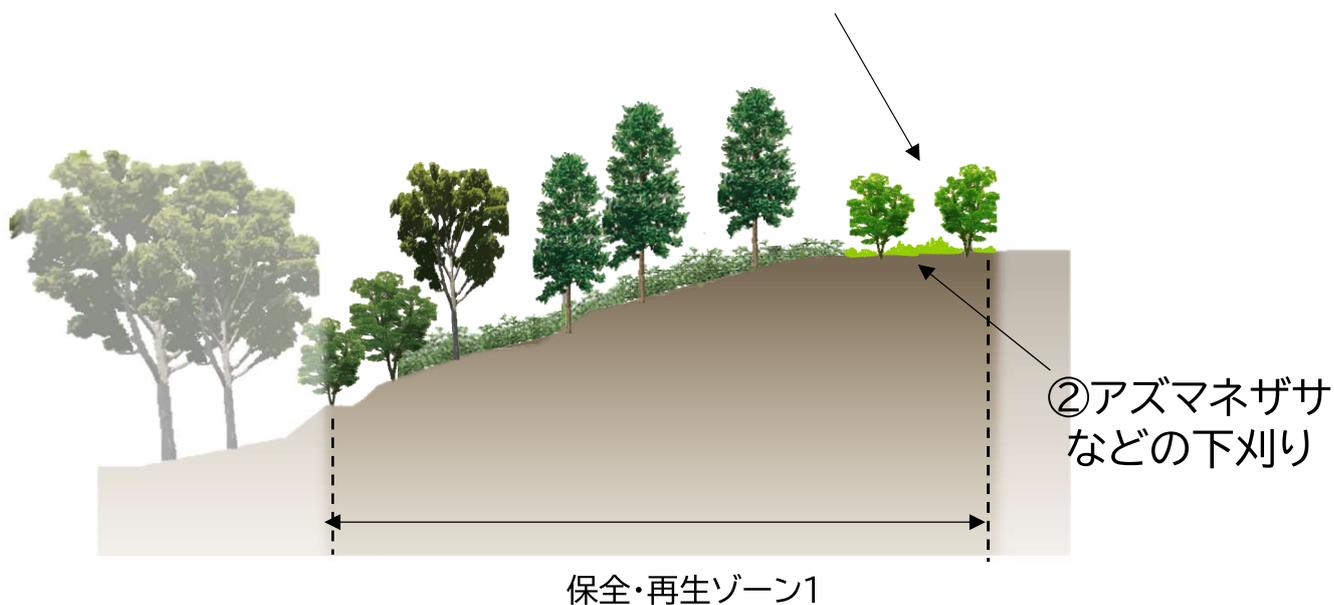
保全・更新ゾーン 断面



②アズマネザサなどが
繁茂している。

【将来像】

①スギ・サワラなどの伐採, クヌギ・コナラの補植



②アズマネザサ
などの下刈り

保全・再生ゾーン1

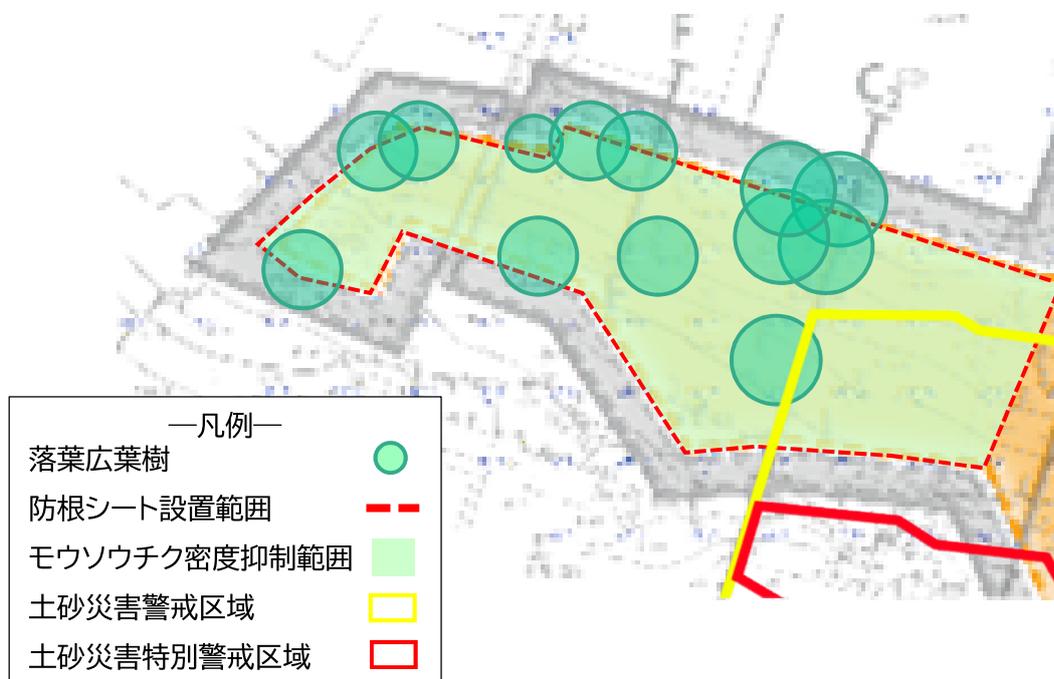
3-5. ゾーニング計画:保全・更新ゾーン2

【ゾーン管理の基本的な考え方】

- ・モウソウチク林の密度管理に併せて, モウソウチク林の拡大を抑制し, 落葉広葉樹との混合林を目指す。

【管理項目】

- ・密度管理としてのモウソウチクの伐採
- ・枯れたり倒れたりしたモウソウチクの伐採
- ・住宅に影響の恐れのある枯木, 枯枝の伐採・剪定
- ・モウソウチクの拡大抑制範囲に防根シートを設置



モウソウチク林の管理イメージ(実篤公園)
<https://www.musashino-gardens.jp>



防根シート施工例
<http://hodumi.co.jp/jworks/sp/item/?id=3590>

3-5. ゾーニング計画:保全・更新ゾーン2

【現況】

②モウソウチク林が点在する
ケヤキなどを圧迫している。

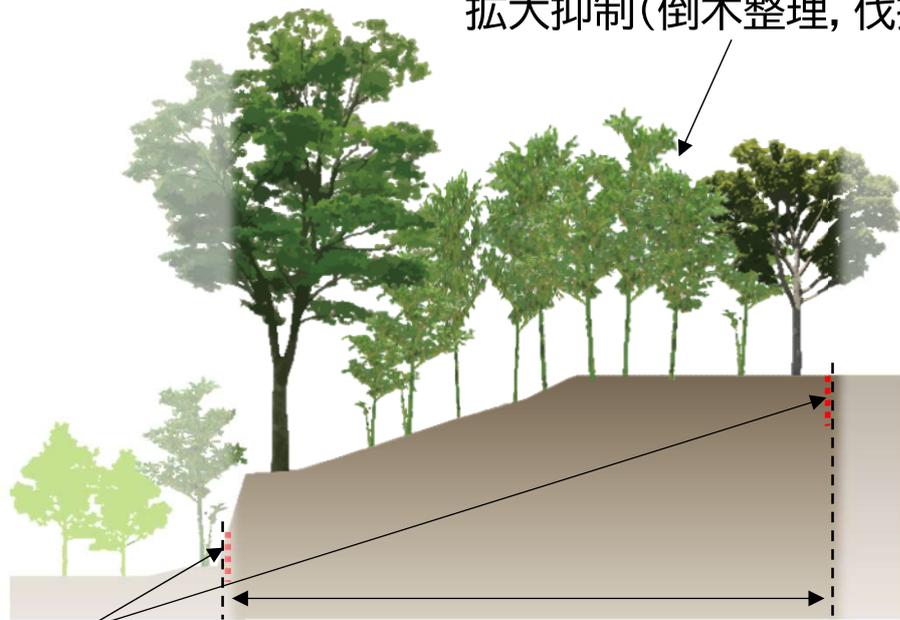
保全・更新ゾーン



①モウソウチク林が密生・倒木, 周囲
の樹林へ侵入し竹林化している。

【将来像】

①モウソウチク林の密度管理,
拡大抑制(倒木整理, 伐採)



②防根シートによる
モウソウチク林拡大抑制

保全・更新ゾーン2

4. 緑の将来像

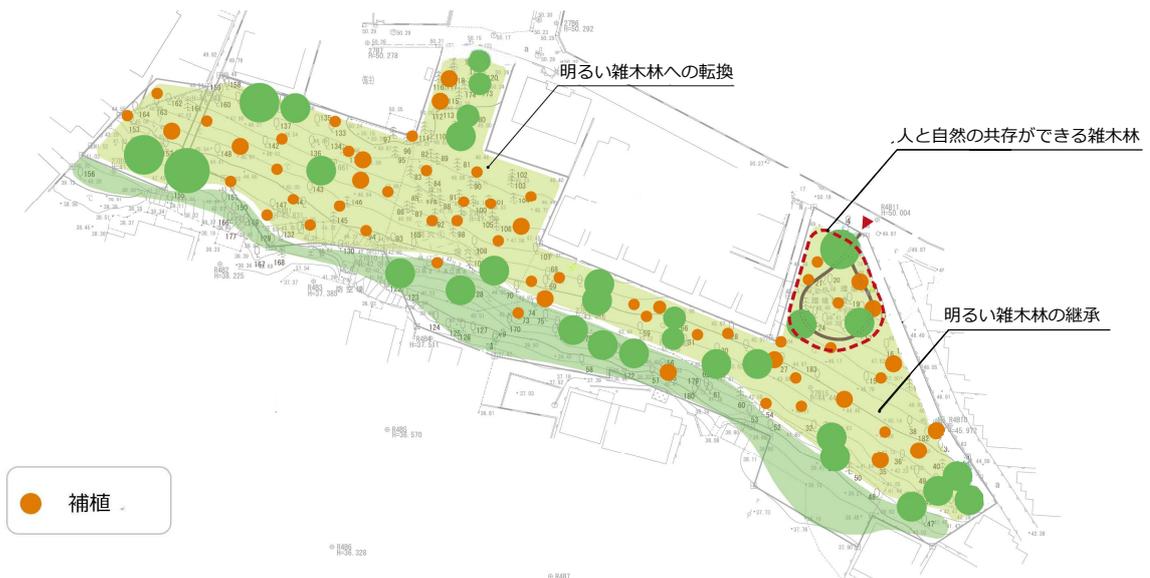
各ゾーンの方向性を踏まえ、この地区の緑の将来像を作成しました。

緑の現状



緑の将来像

人と自然が共存でき、次世代に継承される武蔵野の雑木林



5. 市民協働について

令和6年10月実施の第1回オープンハウスで行ったアンケートにおいて、市民協働に興味がある、参加してみたい等のご意見を多くいただきました。

市民協働のあり方については、利用エリアの設定等、保全管理計画に基づいた管理を進めていく中で段階的に検討していきます。

また、市民協働に向けた機運醸成を図るため、今後近隣の方々をはじめ、より多くの市民の方々に深大寺元町特別緑地保全地区に慣れ親しんでいただく機会を設けていきます。

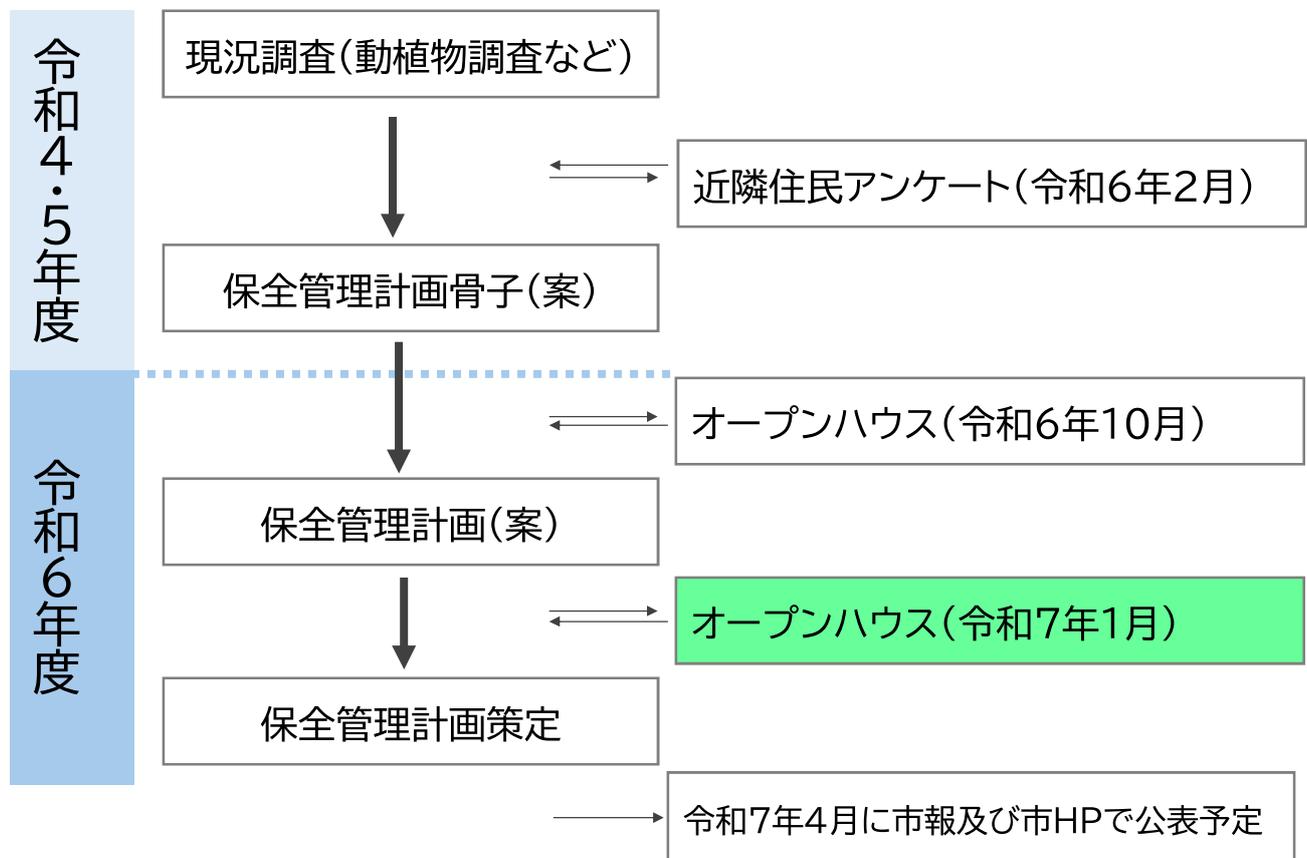


市民協働事例(雑木林ボランティア)

6. 今後のスケジュールについて

これまでにパネル形式でご説明した保全管理計画の内容は、今後、深大寺元町特別緑地保全地区保全管理計画として策定し、令和7年4月に市報及び市ホームページで公表する予定です。

◆策定スケジュール



説明は以上となります。ご質問やご意見等がありましたら係員までお寄せください。

本日はご来場いただきありがとうございました。